アルコール・バイオマス研究会　シンポジウム
「地域バイオマス利活用の新たな展開」

平成30年12月5日(水)13:30～17:25　東京大学　中島董一郎記念ホール
（東京都文京区弥生1-1-1　東京大学農学部フードサイエンス棟）

主催　一般財団法人バイオインダストリー協会　アルコール・バイオマス研究会
共催　一般財団法人バイオインダストリー協会　発酵と代謝研究会、新資源生物変換研究会、植物バイオ研究会
後援　一般社団法人日本有機資源協会（JORA）

アルコール・バイオマス研究会は、アルコールに関する生産、流通、消費及びバイオマスの生産、資源化、有効利用に関する情報の交換を通じて我が国のアルコール工業の発展ならびにエネルギー・環境問題の解決に寄与することを目的として活動しております。

持続可能な開発目標（SDGs）に対して、日本でも様々な取り組みが進められており、国内地域のバイオマスの利活用は目標達成のための重要な課題であるとともに、新たな産業創出と地方創生への貢献にも期待されます。

今回は国内自治体のバイオマス利活用の現状とより効率的で有効なグリーンエネルギー・化成品生産の技術開発について紹介いたします。また、恒例の飲むアルコールの話題としては最近の日本酒の製品展開を取り上げます。

多くの方のご参加をいただきたくご案内いたします。

13:30～13:35	開会挨拶
13:35～14:15	「バイオマス産業都市の特徴と今後の展望について」 土肥　哲哉氏（一般社団法人日本有機資源協会（JORA）事務局主幹）
14:15～14:55	「湿式ミリング処理による木質バイオマスの新しい利用展開」 大塚　祐一郎氏（国立研究開発法人 森林総合研究所　森林資源化学研究領域　主任研究員）
14:55～15:35	「国産資源としてのバイオマスをどのように使えばよいか」 林　潤一郎氏（九州大学先導物質化学研究所　所長）
15:35～15:50	休憩
15:50～16:40	「地域のリグニン資源を活用する新産業の創出 ―改質リグニンのポテンシャル―」 山田　竜彦氏（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所　新素材研究拠点長、研究コンソーシアム「ＳＩＰリグニン」代表）
16:40～17:20	「清酒製造技術を基にした商品展開」 倉橋　敦氏（八海醸造株式会社　研究開発室　室長）
17:20～17:25	閉会挨拶
17:30～	交流会（向ヶ岡ファカルティハウス１F　レストラン　アブルボア）

講演会参加費	JBA法人会員、JBA個人会員（アカデミア所属）：3,000円 JBA法人会員でない企業（事業者）に所属する個人会員：8,000円（税込） 非会員：15,000円（税込）交流会　4,000円（税込）
お申込み	弊協会ホームページ（https://www.jba.or.jp/）よりお申込下さい。 申込み締切　12月3日(月)まで、お申込み多数の場合、早期に受付を終了させていただく場合がございます。
お問い合わせ	(一財)バイオインダストリー協会　アルコール・バイオマス研究会事務局（担当：本山、尾崎、村瀬、青木） TEL：03-5541-2731　E-MAIL：greenbio@jba.or.jp　〒104-0032　東京都中央区八丁堀2-26-9 グランデビル8F